

ロス対策士の皆さん

現在、アメリカの大都市のダウンタンの治安は悪化し、小売店が窃盗や強盗のターゲットになっています。そのために閉店する店も多いと聞いています。ダウンタウンには日々の生活に必要な店舗がなくなるといった事態も起き始めています。

さてそのような中で、ウォルグリーン（世界第二位のドラッグストアチェーン）は、そのような立地でも犯罪から身を守りながら、地域のニーズに応えるための新店舗フォーマットの実験をしています。

ロス対策士コミュニティのお知らせ

フェイスブックに「ロス対策士コミュニティ」を設けました。フェイスブックのアカウントをお持ちの方は、是非ご参加ください。

<https://www.facebook.com/groups/919653045344673>

特定非営利活動法人全国万引犯罪防止機構

L P 教育制度作成委員会

店舗を窃盗などの犯罪から守るためのウォルグリーンの革新的な新店舗デザイン



シカゴにあるウォルグリーンの店舗（#7179）は、店舗の犯罪対策を強化するために、よりデジタル化に重点を置いた改装を行った。

昨年、シカゴのダウンタウンにある最も強盗などの犯罪の発生が多かった店舗のひとつを最新のテクノロジーの導入実験店とした。市内のサウスループ地区に位置するこの店舗は、人通りの多いエリアに位置して、犯罪の標的となっていたが、そのエリア特有の医療ニ

ーズに应运っていた。

同社のアセットプロテクションのリードディレクターであるマーク・バニヤンは、小売業界リーダー協会（RILA）の小売業のアセットプロテクション・カンファレンスにおいて、どのような転換を行ったのか、また資産保護策がどのように強化されたのか、そしてこれからの方向なのかを述べた。

昨年の夏以前、ウォルグリーン店 #7179 はセキュリティレベル4 とみなされ、強力な商品窃盗や強盗対策と非番の警察官（訳注：アメリカでは警察官の副業が認められている）によるオンサイト・セキュリティ・サービスが提供されていた。おむつやスキンケア製品からトイレトペーパーや洗濯洗剤に至るまで、あらゆるものが店舗から持ち去られ、組織的な小売犯罪（ORC）の被害が頻繁に発生していた。

変化を起こす

ウォルグリーンは、その人口動態と地域の医療ニーズを考慮して、サウスループの店舗がオムニチャンネルとデジタルに焦点を当てた新しいプロトタイプの良い候補地であると判断した。同社は 30 日間のうちに店舗を閉鎖し、改装して、再オープンした。現在では、明るくオープンな環境が特徴で、店頭には顧客サービス担当者が常駐しており、買物客が薬局でサポートを受けたり、無料窓口で注文品を受け取ったり、店舗で通常販売されている商品をキオスクで注文したりすることができるようになった。

顧客はウォルグリーンのアプリやオンライン、あるいは店内のキオスクを通じて注文することができ、店員が店舗の奥にある商品で注文を処理する。この店舗には、ビタミン、食品、パーソナルケア用品、紙製品などの人気の日用品を約 1,000 SKU 相当を陳列した売場がある。発表者であるバニヤンはそれをテイクアウト用のセクションに例えている。

窓口では、FedEx（宅配）、Western Union（送金）、写真現像などの従来のウォルグリーンのサービスも利用でき、キオスクでの注文の発注から処理までの平均待ち時間は、わずか 2 ～3 分である。

新しいフォーマットにより、店舗従業員と顧客の安全を最優先事項とし、店舗の迅速なピッキング（訳注：E コマースの注文品のピッキング）、より多くのチェックアウトオプション（訳注：想像だが、セルフレジ）、デジタルコミュニケーションの増加、そしてシンプルで合理化された一連の健康管理サービスを顧客ごとに提供することができるように店舗を変えた。

アセットプロテクションに関して考慮すべき点

商品の大部分を売場から撤去することは確かに窃盗などのリスクを減らすことにはつながる。サウスループ店の店舗設計では、陳列棚を大幅に減らしたために、万引窃盗の対象となる商品が減った。陳列棚の監視、商品補充に必要な労力も軽減された。ウォルグリーンはまた、店内にナショナルブランドよりも多くの自社ブランドを陳列している。

一般的に、酒やタバコを販売することが、犯罪や暴力を引き起こす傾向が強いこともあってこの店舗からそれらの取り扱いをやめる方向であり、各店舗の品ぞろえを決定する際に、

商圈の人口動態、客層などをより考慮するようになるであろう。

結果を検討する

新しい店舗のプロトタイプの結果はまちまちだが、ウォルグリーンはオムニチャネルに重点を置いた店舗のユニークな特徴を出そうとする計画を立てている。その結果 2023 年 7 月以降、強盗被害は発生しておらず、職場での暴力や犯罪行為の事件は 85%減少しており、その結果、それまで利用していた外部のセキュリティサービスをやめている。

一方、売上高は部門やカテゴリーによってまちまちだ。セルフサービスでの商品購入が減少している（売場を縮小した）が、一方、処方箋の売上が増加した。

バニヤンは、ウォルグリーンは今後、サウスループ店の特定の売場に商品保護装置を設置する計画であり（訳注：どのようなものかはここでは言及していない）、持ち帰り用通路（訳注：セルフサービス）で提供する商品の品ぞろえにも細心の注意を払っていると述べた。この店舗は、同社の e コマースの注文オプションのハブ拠点となる予定であり、在庫スペースと労働効率についても検証していく予定だ。

ウォルグリーンについて：Walgreens Boots Alliance Inc. は、毎日何百万もの顧客と患者にサービスを提供するヘルスケア、薬局、商品販売（小売り）の大手企業である。米国、ヨーロッパ、ラテンアメリカに約 12,500 の店舗を持ち、315,000 人以上の従業員を雇用している。そのうち、イリノイ州ディアフィールドに本拠を置くウォルグリーンは、米国、プエルトリコ、米領ヴァージン諸島で約 9,000 の店舗を運営している。プログレッシブグローサー（米国で権威のある商業雑誌）の 2023 年 [北米トップ食品・消耗品小売業](#) リスト「The PG 100」では、第 5 位にランクされている。

https://progressivegrocer.com/how-walgreens-innovative-new-store-design-enhances-asset-protection?utm_source=swiftmail&utm_medium=email&utm_campaign=PG_NL_Weekender&mkt_tok=ODI1LUxTUC01NDUAAAGSme0vc8bUV6paQ3aifbfNfYhhx2UDF7AiLxqI1lfcGpgiQ4HXXKkrpD6C_gZzjAS1GVxucM4aNH3kZRjYAgoTFdOMJz6u4P9FwAstezgrz92V

セーフウェイはロスの高い店にレシートスキャナーを導入（セルフレジに）

アルバートソンズ傘下のセーフウェイは、セルフレジで買物客が店を出る前にカート内の商品の代金を支払ったことをレシートをお客がスキャンすることで確認している。もちろんこれは盗難対策であり、そのためのスキャンゲートを設置している。

サンフランシスコとワシントン DC 地域の一部の店舗にセットした、このセキュリティ対策は、セルフ チェックアウトエリアの出口がゲートで閉鎖され、顧客が退店する前にレシートをスキャンすることで開くことになる。

アルバートソンズの説明では「顧客の店内体験を向上させるため」という。言い換えればこの変更は「安全で快適なショッピング体験を維持する」ためだが、同社はまた、ゲートが盗

難防止策であることも認めた。

サンフランシスコとワシントン DC 地域における小売犯罪は現在も問題になっている。実際、昨年、サンフランシスコのダウントウンのトリニティ・プレイスにあるホールフーズ・マーケットは、この地域で横行する犯罪のため閉店を余儀なくされた。また大手小売店のターゲット・コーポレーションも、暴力、窃盗、安全上の懸念から、サンフランシスコ地域の3店舗を閉鎖することを決定した。

一方、ワシントン DC 地域では、ジャイアント・フード社が万引と闘うためにさまざまな戦略を実施し、盗難の多いナショナルブランドを棚から撤去することまで行っている。

ALDI、チェックアウトレス店舗を開店

アルディはグラバンゴ (Grabango) のチェックアウトレス・ソリューションをフルサイズの店舗の改装で導入した。

コンピュータービジョン (画像認識) 技術を活用したグラバンゴのシステムは、売場の棚割りや商品陳列に一切変更を加えることなく、アルディゴー (ALDIgo) のチェックアウトレス・ソリューションをアルディの既存店に導入された。

「ALDIgo はグロサリー業界にとって極めて大きな出来事である」とカリフォルニア州パークレーに本拠を置くグラバンゴの CEO、ウィル・グレイザーは断言した。「より困難ではあるものの、このテクノロジーを、一般的な店舗で導入することが私たちにとって重要でした。アルディは世界で最も革新的な小売企業のひとつであり、私たちは彼らと協力して買物客にとって革新的な新しいショッピングの方法を提供できることを大変うれしく思います。」

このテクノロジーは、コンピュータービジョンを使用して店内のすべての商品を識別および追跡するもので、買物客はレジ待ちの列に並んだり、商品をスキャンすることなくそのまま店を出ることができる。

アルディの IT 担当副社長、エリック・トラクスラーは次のように述べている。「アルディは革新的であり、買物客に最高の買物体験を提供するための新しい方法を常に追求している。アルディゴーはその試みのひとつである。」

アルディゴーを導入した店舗は、イリノイ州オーロラのシカゴ郊外にある店舗で既に一般公開されている。アルディゴーを使用するには、顧客は通常と同じようにアルディで買物をし、入口に特別なカートやゲートは存在しない。買物が終わったら、買物客は出口のそばにあるグラバンゴの支払い精算ステーションで、クレジットカードやデビットカード、またはグラバンゴのアプリを使って支払うことができる。もちろん顧客が希望すれば従来のフルサービスのレジでチェックアウトすることもできる。

https://progressivegrocer.com/aldi-introduces-checkout-free-grocery-shopping?utm_source=swiftmail&utm_medium=email&utm_campaign=PG_NL_TechTrend&mkt_tok=ODI1LUxTUC01NDUAAAGSzvCSBsEsuEqrTiMoyidhKUuSa1fzlQ-

[pxuR6hniRFqPj7SQIBjeafENvXfoiXneDbIU4mE7vDFI3MyIwtK51i2hcp37Ns8xMk8rEcm8jPAWm](#)